

一〇、毀謗三寶戒

一 佛法僧三寶の中で僧は和合と云ふ事が第一ぢや、此の和合の二字に目を著けて見よ。そして持犯を分けよ。

答 宇宙は和合を以て成立せり、大工はカチ／＼左官はベトベト、仁義道中阿屎送尿盡く和合と見る時は持。斷見常見、佛見法見等を生ずれば犯。

二 前語を著けよ。

答 佛事門中不捨一法。

三 本語を著けよ。

答 南村北村雨一犁。新婦餉姑翁哺兒。

四 斷常二見を離れての衆生濟度に什麼ぢや。

答 兒供には兒供。成人には成人、老人には老人、女には女、男には男それ相應に接得する。

### 末後牢關

普門品に觀音大士三十三身を現すとあり、即今汝の三十三現身は如何。  
(前出、經文、二二)

答 上は天子將軍より、下は乞食非人の眞似に至るまで自由自在にやつてのけます。

### 室內公案解答集終

大正十一年四月十三日發行  
大正十四年四月八日再版發行

定價一圓五十錢

編輯者 明 庵 主

發行人兼印刷所 飯 塚 哲 英

印刷所 東京市牛込區矢來町十一番地  
中央佛教社印刷部

不許複製

東京市牛込區矢來町十一番地

發行所 振替東京三七六五一番  
電話牛込一一八五番  
中央佛教社

毎月一回一日發行  
**中央佛教**  
 一冊送料共四十一錢  
 半々年送料共四十四錢  
 一々年送料共四十四錢

佛敎界より發刊せらるゝ雜誌その種類頗る多きも、多くは一宗に偏し、且つ或は専門的なるものあり、本誌は不偏不黨、敎界凡ての方面の記事を掲載し、苟も敎界の政治を論議し、敎界の事情に通じ且つ絶えず新しき敎材を得んとするもの、伴侶として飲くべからざるものなり。

毎月一回一日發行  
**大乘禪**  
 一冊送料共三十一錢  
 半々年送料共一圓八十錢  
 一々年送料共三圓五十錢

本誌は禪界の太陽なり。苟も禪を談じ、禪を修し、禪の何たるかを知らんとするものは必ず本書を伴侶とせざるべからず。本誌には原田祖岳師の修證義講話、飯田操隱老師の碧巖集提唱、今津洪嶽氏の研究論文が連載さる。

毎月一回一日發行  
**家庭の友**  
 一冊送料共三十一錢  
 半々年送料共一圓八十錢  
 一々年送料共三圓五十錢

世間に家庭雜誌と稱するもの多きも、佛敎的立場より眞面目に家庭生活の本領を説くものなし。この缺陷を補はんとして發行されしものが本誌なり、高尚なる趣味と實益とを兼ね備へたる代表的家庭雜誌として高評湧くが如し。

毎月一回一日發行  
**佛敎童話**  
 一冊送料共六錢五厘  
 一々年送料共七十五錢  
 五冊以上特別割付

近頃家庭に於ける兒童雜誌の需要は實に夥しく日にその盛行を示しつつあるも、その多くは紀末的内容を有するもののみなり。本誌は此の缺陷を補はんとために佛敎主義を根柢とし、剛健實實なる兒童精神を涵養すべく創刊されたるものなり。

蓮生觀善先生著  
**宗敎法研究**  
 定價八圓  
 送料二圓

宗敎界政治界の懸案となりつゝある宗敎法について最も關係深き僧侶が宗敎法の何たるかを知らざるを慨し、歐米及び我が國古來の宗敎制度を研究して宗敎法に關する知識を提供せるが本書なり。

丸山興恩先生著  
**側面觀**  
 定價六圓  
 送料四圓

普通選舉權の要求は今や國民の聲となり、僧侶參政權獲得の要求また僧侶の死活問題として敎界に絶叫せられつゝあり、我等は故に選舉權を有べきを詳述してその促進を期せるもの本書なり。

蓮生觀善先生著  
**僧侶被選權問題**  
 定價七圓  
 送料六圓

本書は僧侶が被選權獲得の必要に迫られ、その運動を起すに至れる動機より現在までの實運動、政府が該運動に對して如何なる態度を取りしか詳細に論述したるものなり。

伊藤聰融先生著  
**曹洞宗行持寶典**  
 定價一圓五十錢  
 送料八錢

曹洞は綿密の宗風を尙び、その行持儀式の精密に規定せらるゝこと各宗に冠たり、本書には曹洞宗の行持の及び來由が仔細に説示し禪門の規矩を視はんとする一般人の爲の指南書たるべきものなり。

三十七大家共著  
**釋尊の新研究**  
 定價二圓八十錢  
 送料一圓二十錢

本書は當代知名學者宗敎家等三十餘氏が各その蘊蓄を傾けて各方面より釋尊の人格全斑を研究詳述せるもの、正確なる史實と興味多き挿話と卓拔なる新研究とを綜合せる新しき釋尊全傳なり。

嵩吉靖先生著

了翁禪師

定價一圓五十錢  
送料八錢

濱地八郎先生著

金剛經要義

定價一圓五十錢  
送料八錢

飯塚夢袋先生合著

和譯金剛經

定價三十二錢  
送料二十錢

巖谷小波先生著

童お釋迦様の話

定價一冊一圓  
送料八錢

野口里城先生編

大震災の哀話と美譚

定價一冊五十錢

不忍池に辨天島を築きたる了翁禪師が古代の社會事業家として圖書館を開き育兒院を設け施業館を建て勸學院を創立する等、文献教化に對する功績甚だ大なり、宗教的社會事業家の必讀すべきものなり。

金剛經は功德無量の經典として古來在家出家の間に廣く讀誦せられたるものなり、本書は此の經の大義を平易に講述したるものにして金剛經の眞髓は本書によりて盡くされたり。

功德廣大なる金剛經も、原文晦澁のため讀誦に際して困難を伴ひ勝ちなりしが、本書の出版によりて全くその支障が除かれたり。携帯にも便宜なるやう製本され、日常の讀誦用として座右に勸む。

釋尊の御誕生より涅槃に至るまでの物語を解りよい平易な十篇の話を綴りしものが本書なり。著者は我國お伽嘶界の先達にして、世界の大神者の眞面目を現さんとして全力を盡して執筆されしものなり

戦慄すべき大惨禍が産める悲傷極りなき哀話、死生の巷に立ちて猶ほ大和民族の犠牲的精神を發揮せる美談佳話數百篇を收む。本書を讀まざる者は日本人に非ず。國民は本書を備へて不朽の記念とせよ。

533  
47

14年7月10日

													伊佐

調査済

終

